

## 【国語】

実践事例：高等学校2年生 / 実施機関：山口県教育委員会

### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・文章を的確に理解するための前提となる登場人物や関係性の理解、抽象的な言語表現の意味把握につまづくことがある。
- ・プリントを利用しても、授業の重要なポイントを把握することが難しい。
- ・語彙力の低さとともに、既知の知識と関連づけて記憶することの難しさがある。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）  
その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること ■聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと
- コミュニケーションをすること ■気持ちを表現すること
- 落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること
- 学習（計算、推論等）すること その他

- ・「聞き取り」に課題がある（聞き間違い・言い間違いが多い）
- ・口頭での説明が続くと集中が途切れやすい
- ・学習内容の定着が難しい（長期記憶が困難）
- ・学習に意欲がもてない

#### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期：1学期・2学期

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

概ね以下の i～v の手順により実施（ii・vについては繰り返し）

- 校内コーディネーター…入学前の中学校との引継ぎにおいて学習の様子を把握。  
また、仮入学等において保護者・本人から状況を聴取。
- 教科担当者…授業時の気づきや感じたことを授業気づきシートに記入  
教科担当者及びサポートスタッフ…生徒観察及び定期考査等の分析  
教育相談担当者等…学習上の困難さについて本人聴取  
全教職員…学校生活全般の様子から特性に通じるエピソードを集積
- 養護教諭による保護者への当該生徒の「聞き取り」に関する医療受診や生育歴に係る聴取

- iv 総合支援学校聴覚障害教育センター地域コーディネーターによる授業参観
- v 上記情報をもとにした教職員による協議

### 3. 指導内容

#### (1) 教科における学習上のつまずきの内容

##### ○言語能力的な課題

- ・新出語句、重要語句等を覚えられない。
- ・自分が理解できる一部の字句に着目し、文章全体の意味をとらえられない。(定期考査等でも設問の一部の語句だけにこだわって解答)
- ・語句(漢字)の読み方がわからないなどの小さなつまずきをきっかけに思考が停滞し混乱する。平静時には思い出せることやできることが、考査等の緊張を要する場面では、思い出せなかったりできなかったりする。

##### ○学習に対する苦手意識

- ・中学時代からの長期にわたる成績不振により、学習に対する苦手意識や自信のなさがある。(定期考査は「欠点でなければよい」、小テスト等は「その場が過ぎればよい」と考える)
- ・課題・設問について、根気よく考えることが困難。(考査の記述問題でなかなか得点できない。)

#### (2) つまずいている背景・原因

##### ○聞き取りの困難さに起因すると考えられる言語能力の課題

- ・日本語における語頭、サ行音・ハ行音等の聞き取りの難しさ(新出語についてしばしば見られる)
- ・英語における音韻認識のなさ
- ・語彙力の低さ(言語理解力の弱さ)

##### ○派生的に生起していると考えられる学習面での課題

- ・注意・集中の持続がやや難しい
- ・字形認識に課題(書字が雑・誤字)
- ・ワーキングメモリーの弱さ
- ・学習に対する自信のなさから生じる苦手意識

#### (3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

##### (i) 授業における全体指導、個への指導について

##### ○聞き取りの困難さに起因すると考えられる言語能力的な課題の解消に向けた取組

- ・重要事項を説明・確認する際は板書し、口頭のみで伝えることを避ける。
- ・タブレット端末を書画カメラとして使用することによる学習プリントの拡大提示及び注目する箇所や記入箇所の提示
- ・プリント学習における生徒が記入する事項の精選

##### ○学習に対する苦手意識の解消に向けた取組

- ・ICTを活用した興味・関心を引くような関連資料の視覚的提示
- ・復習や小テストの実施
- ・毎授業後の自己評価および教員コメントによるフィードバック

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

○聞き取りの困難さに起因すると考えられる言語能力的な課題の解消に向けた取組

- ・文字の覚えにくい箇所をマークし、意識しながら書いて覚える等の勉強法の提案

○学習に対する苦手意識の解消に向けた取組

- ・定期考査前に目標点数を設定し、家庭学習において本人が力を入れたいと思う事項の勉強方法等について確認
- ・宿題や考査に向けた学習スケジュールの計画及び管理の方法について確認

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

○生徒のつまずきに応じた支援の有効性の確認

- ・重要語句を板書等により提示することで、聞き間違いや言い間違いが減った。
- ・学習プリントの拡大提示や関連資料の視覚的提示により、注意・集中が持続するようになった。

○学習意欲の向上

- ・定期考査前の家庭学習の時間が全体で5～6時間増加。
- ・苦手なところを意識して勉強することが（定期考査の）結果につながることを実感でき、「もう少しやっておけばもっと得点できたのに」と悔しがる姿が見られた。また、「欠点でなければよい」といった発言がなくなり、次回の定期考査に向けて、テスト勉強の開始時期を早めようとしている。
- ・自分なりの勉強方法を考えることができるようになった。

○保護者との信頼関係のさらなる醸成

- ・生徒の学校での様子や変容について保護者と情報を共有することで、保護者と連携して本人の頑張りを見守ったり支えたりすることができた。

## 【家庭】

実践事例：高等学校3年生 / 実施機関：山口県教育委員会

### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・集中を持続させることが苦手で、落ち着いて作業に取り組むことが難しい。
- ・一斉での指示だけでは内容を理解することが難しく、実習への意欲が減退して最後まで取り組むことが難しい。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）  
その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと  
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること  
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること  
学習（計算、推論等）すること その他

- ・中学校での学習内容の定着が充分でない。
- ・一斉での口頭による指示を理解することが難しい。
- ・見通しをもって行動することが難しい。
- ・指示書を見ながら自分の力で作業を進めることが難しい。
- ・落ち着きがなく、注意が散漫になってしまうことがある。
- ・手先の巧緻性に欠ける。
- ・コミュニケーションを図ることが難しい。

#### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期：1学期・2学期

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

概ね以下のi～vの手順により実施（ii・vについては繰り返し）

- 校内コーディネーター…入学前の中学校との引継ぎにおいて学習の様子を把握。  
また、仮入学等において保護者・本人から状況を聴取。
- 教科担当者…授業時の気づきや感じたことを授業気づきシートに記入  
教科担当者及びサポートスタッフ…生徒観察及び定期考査等の分析  
教育相談担当者等…学習上の困難さについて本人聴取  
全教職員…学校生活全般の様子から特性に通じるエピソードを集積

- iii 養護教諭による保護者への当該生徒の「聞き取り」に関する医療受診や生育歴に係る聴取
- iv 総合支援学校聴覚障害教育センター地域コーディネーターによる授業参観
- v 上記情報をもとにした教職員による協議

### 3. 指導内容

#### (1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・事前連絡をしても忘れ物をしてしまい、実習に臨む態度としては評価が低い。
- ・一斉による指示の理解が難しい。
- ・手順・方法など見通しが立てられない。
- ・用語と操作を結び付けて理解し、実習を進めることが難しい。
- ・困っている時に自分から質問することができない。
- ・注意散漫になり、作業に集中できない。

#### (2) つまずいている背景・原因

- ・視覚優位であり、一斉の指示を聞いただけでは理解が難しい。
- ・生活体験や対人関係の経験が乏しいため、自己肯定感が低く、不安感が大きい。
- ・作業の見通しが見つからないため、落ち着きがない。
- ・抽象的な表現の理解が難しい。
- ・他者への質問など、いつ、どのようにコミュニケーションをとったらよいかわからない。

#### (3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

##### (i) 授業における全体指導、個への指導について

###### ○視覚的な支援

- ・本時の目標、実習の流れ、手順等を板書
- ・板書には、文字だけでなくイラストや写真を活用（視覚化）
- ・工程表をラミネートして各班に配付（手元で各自確認）

###### ○指導の工夫

- ・簡潔な指示
- ・グループ編成の配慮
- ・器具の置く場所や使用方法等についてルール化
- ・配慮を必要とする生徒だけがクローズアップされないことがないよう、学級全体への支援や配慮の組合せ

##### (ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

###### ○教科担当と連携して次回の授業内容を確認し、活動内容を視覚的に明示しながら心理的な不安を軽減

- ・教科担当と連携して写真入りの説明書を作成し、見通しを持たせるために実習の流れや手順、工程等の確認

###### ○包丁の使い方の指導（家庭とも連携して指導）

###### ○質問の仕方やタイミングについて練習

(4)(3)の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

○生徒のつまずきに応じた支援の有効性の確認

- ・工程表を見ながらグループで確認し合い、自信をもって進めることができるようになった。
- ・質問することに躊躇することが少なくなってきた。

○学習意欲の向上

- ・示範による説明やスライドを用いた説明等により、見通しをもって集中して実習に取り組めるようになった。

○保護者との信頼関係のさらなる醸成

- ・学校で学習した包丁の使い方などを家庭でもできるかどうか確認するなど、生徒の学校での様子や変容について保護者と情報を共有することができた。

## 【外国語】

実践事例：高等学校2年生 / 実施機関：山口県教育委員会

### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・空間や形の捉えにくさなどから、アルファベットを書いたり覚えたりすることに困難さがあり、さらには、英単語を発音したり、読んだり、意味を覚えたりすること、アウトプットとして書いたり話したりすることも苦手である。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）  
その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと  
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること  
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること  
学習（計算、推論等）すること その他

- ・英単語の理解が難しく、発音することや英単語を「読む」ことができない。
- ・アルファベットの文字に混同がみられる。
- ・聞いた単語を書き表すことが苦手であり、学習した単語・表現を使って「話す」など表出に困難さがみられる。
- ・英語学習の4技能全般に困難さがあることから、意欲的に学習活動に向かうことができない。

#### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期：1学期・2学期

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

概ね以下の i～v の手順により実施（ii・vについては繰り返し）

- 校内コーディネーター…入学前の中学校との引継ぎにおいて学習の様子を把握。  
また、仮入学等において保護者・本人から状況を聴取。
- 教科担当者…授業時の気づきや感じたことを授業気づきシートに記入  
教科担当者及びサポートスタッフ…生徒観察及び定期考査等の分析  
教育相談担当者等…学習上の困難さについて本人聴取  
全教職員…学校生活全般の様子から特性に通じるエピソードを集積
- 養護教諭による保護者への当該生徒の「聞き取り」に関する医療受診や生育歴に係る聴取

- iv 総合支援学校聴覚障害教育センター地域コーディネーターによる授業参観
- v 上記情報をもとにした教職員による協議

### 3. 指導内容

#### (1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・似たような文字の識別が難しい。
- ・「まとまりのある内容」ごとに英文を区切ることが難しい。(文字単位で認識し、「単語」や「句」単位での認識ができない。)
- ・英語の文字と音声の関係が分からない。(音読のためにはカタカナが必要。)
- ・書き写すのに時間がかかる。
- ・単語間にスペースを空けずに書くため、自分の書いたものを用いて復習することが難しい。

#### (2) つまずいている背景・原因

- ・空間認知の弱さ
- ・全体を理解する力の弱さ
- ・記憶容量の少なさ
- ・文字と音声の関係に係る知識や経験の不足
- ・文字と音声の同時処理の苦手さ
- ・中学校での学習経験の不足
- ・学習の苦手さから生じる学習に対する自信のなさ

#### (3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

##### (i) 授業における全体指導、個への指導について

###### ○視覚的な支援

- ・授業の流れ(内容)や、主な学習課題・目標を板書で示す。
- ・板書の文字をなるべく大きく書く。
- ・活動毎に授業プリントを用意し、「学習したこと」が視覚的に手元に残るようにする。

###### ○音声に着目した英語のつづり方練習(「シンセティックフォニックス」の手法)

- ・音と文字を結び付けるパターン学習を行う。

###### ○授業のパターン化

- ・授業内容や活動の見通しをつけやすくする。

##### (ii) 個別指導について(取り出し指導、通級による指導との連携など)

###### ○教科担当と連携して次回の授業内容を確認し、活動内容を視覚的に明示しながら心理的な不安を軽減

- ・宿題や考査に向けた学習のスケジュールの計画及び管理の方法について確認

###### ○シンセティックフォニックスの手法を取り入れ、英語の発音のルールを再確認

- ・英単語の発音のしにくさを解消し英語学習への心理的な拒否感を軽減

#### (4) (3) の効果・評価(児童生徒の様子や変容および授業の評価)

##### ○生徒のつまずきに応じた支援の有効性の確認



- ・授業内容をパターン化することで、活動に入りやすく前向きに取り組むことができるようになった。
- ・板書を写すスピードがはやくなった

#### ○学習意欲の向上

- ・シンセティックフォニックスの手法を用いた指導により、発音を学びなおすことで単語を読める実感をつかみ自信がついた。
- ・学習課題や活動の見通しがつきやすくなったことで、集中して授業に取り組めるようになった。

#### ○保護者との信頼関係のさらなる醸成

- ・生徒の学校での様子や変容について保護者と情報を共有することで、保護者と連携して本人の頑張りを見守ったり支えたりすることができた。